いぐち たくあき
井口 拓皓

井口拓皓（経２）が大一番で真価を発揮した。優勝が懸かった立正大２回戦で９回を一人で投げ抜き、自身初の完封勝利。エース・白崎勇気（営３）よりも一季早い達成を果たした。

白崎勇との２本柱と期待されながら、今季序盤は苦しんだ。開幕戦の拓大戦では２試合を投げたが結果を残せず負け投手になると、続く専大戦でも早いイニングで降板し、なかなか勝ち星を手に入れられない。

「しっかり投げられた」と語る日大戦では７回を投げ無四球、失点は本塁打による２点のみに抑えて初勝利を挙げる。続く東農大戦でも粘り強く投げ６回を２失点にまとめて勝利投手に。だが井口は常に「白崎さんに負担を掛けたくなかった」と、後を投げる白崎勇に気を遣っていた。

立正大との最終戦。１勝すれば２部優勝が決まる中、１回戦を落として迎えた２回戦。勝てば優勝、負ければ目の前で立正大が優勝という大事な試合で「（試合前）今までにないくらい緊張した」と語り先発を任された井口だったが、試合が始まると徐々に落ち着きを取り戻し、９回を一人で投げ抜き念願の完投勝利。被安打２の圧巻の完投劇を見せた。受けた捕手の上村新（営４）は「いつもの井口と違った。ストレートが最後まで走っていた」と称えた。

終盤調子を上げてきた井口は「（先発ローテーションを守れたのは）うれしい。最低限の仕事ができた。（入替戦に向けて）もう一度しっかり準備したい。４年生が後輩に神宮でやらせたいって言っているから４年生のためにも頑張りたい」と力強く語った。（田上慧）

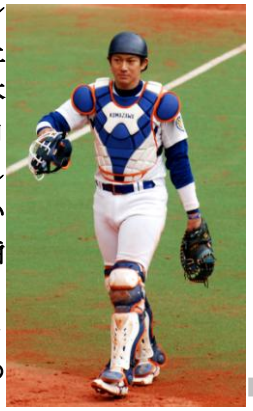
◆井口　拓皓【いぐち　たくあき】
1991年１月16日生/投手/右投右打/175㌢75㌔
/市立川越高校出身/経済学部経済学科在籍

ヒーローズ HEROES

立正大２回戦。負けたら２部残留確定―。１部昇格のためには絶対負けられない試合の中で、上村新（営４）が４年生としての意地を見せる。

春は全試合スタメンとして、投手陣を支えてきた上村新。しかし今秋は、絶対的だった捕手としてのポジションを専大３回戦から戸柱恭孝（現２）に奪われ、女房役としての仕事を果たすことができずにいた。上村新にとって最後のリーグ戦。「ずっと出たいと思っていた」という思いが実り、東農大１回戦では白崎勇気（営３）が本塁打を浴びた直後、戸柱に代わりマスクをかぶる。そこからはこれまでの経験を糧に、不調だったエースを最後までリードし勝利に貢献。その後は戸柱と２人で投手陣をまとめていく。

今迎えた立正大との優勝決定戦。初戦は相手に完封負けを喫し、絶体絶命の状況となった試合でスタメンを任される。先発の井口拓皓（経２）を４年生として、捕手として引っ張っていく。結果は井口の公式戦初完封勝利の立役者となった。またこの試合で上村新の打線は３打数２安打２打点と爆発。２回に中越二塁適時打を放ち先制すると、７回には今季初本塁打をレフトスタンドに叩き込む。攻守ともにチームを盛り上げる存在となった。井口は上村新の活躍について「本当に楽になった。ありがたかった」と感謝の言葉を口にした。主将の笠間将裕（商４）は上村新に対し「苦しかったと思う。でも悔しさをバネにして打ってすごいなって。タメだけど尊敬する」と同級生への思いを噛みしめるように話した。



残すは入替戦のみ。「本当はここでやっていないといけない。戻ってくる」という決意とともに、野球の聖地・神宮への復帰が期待される。（堀江あゆみ）

◆上村　新【うえむら　しん】
1988年８月28日生/捕手/右投右打/178㌢80㌔
/広陵高校出身/経営学部経営学科在籍

うえむら㉒しん
上村 新